

七十周年に向けて

会長 神馬恒成



一万三千有余名の会員が、それぞれ所を得てこの活躍なさっておることをこの上ない喜びとします。母校は百年の大計をもって現在地に移転し、

先の六十周年を経て、日々発展し続けております。

趣意書の中でもふれましたが、六十年の節目を一つの契機として、同窓会も発展、充実していく必要を痛感しております。その心情の具現されたものが、昨年の総会で決議をみました年會費の件です。年會費を納める度に母校を思い出していただく、母校に対し

役員紹介

昭和六十三年度選出の同窓会役員は、次のとおりです。役員構成の特徴は、副会長を増やして、多くの期とのスムーズな意思の疎通をはかるうとしたこと、また、女性会員も増加したことにより、副会長の中に女性を二人選出したことです。

- 顧問
平川 正司(旧4)
佐々木 満(旧15)
- 会長
神馬 恒成(旧9)

○副会長

- 大塚 繁夫(旧10)
- 花下 哲夫(旧12)
- 伊勢 眞佐實(旧15)
- 牛丸 幸也(旧19)
- 柴田 郁(新6)
- 田中 仁純(新7)
- 小林 絢子(新7)
- 工藤 茂宣(新12)
- 飯坂 誠悦(新17)

○監査

- 田口 善二郎(旧16)
- 大坂 昇一(新5)
- 佐藤 浩嗣(新12)

※事務局、能代高校内

◎住所・能代市宇高橋二一

◎電話・〇一八五

五四―二二三〇

足腰の強い生徒を

校長 加賀正隆



同窓の各位におかれましては、ますますご清祥のこととお察し申し上げます。

折角の機会でございますので、最近の学校の特徴的な事情をご紹介申し上げます。ご挨拶にかえたいと思います。

樽子山の地に別れを告げ、広大な高橋の現在地に移転しましたのは、昭和四十九年十一

月、思いをさせていただく、このことが、ひいては、同窓生としての意識の高揚につながり、また絆も強まっていくことになると思えます。さすれば、同窓会も発展に向けて自然に前途は明るいものとなっていくのは必定かと思えます。

會費の件につきましてはよろしく願います。

高橋の校地は全県下の普通高校としては屈指の敷地面積を誇っております。その一面に今秋、雨天体育館(南北四〇M、東西三〇M)が完成しました。文武両道をかかげる母校に今一つ欲しいものは、独立

の図書館です。同窓会としては、同窓会館も是非とも欲しいところでございます。

創立七十周年を目的としてこれらの計画も実施に移していきけるよう力を蓄えて置きたいものと考えております。

春以来、各地の同窓会(短信別掲)に出席しましたが、同窓生の活躍ぶりや、理屈ぬきで卒業期を超えた結びつきの深さを目のあたりにし、大変心強さを覚えました。

会員各位の更なるご発展と能代高校同窓会の一層の充実を祈りながら、ごあいさつとします。

月のことでした。

爾来「松陵健児」の名にふさわしい環境づくりに力を注ぎ、徐々にではありますが、松の緑が往時を偲ぶよすがとなりつつあります。

このように器はよりやくにして昔の面影を呈してまいりました。

一方、中身の生徒はどうであらうか。能代高校とて、やはり時代の趨勢を避けて通るわけにはいきません。目まぐるしく変わる大学受験制度。また、生徒の進路、地域の期待等に応えるため、平成元年度より

六十五分授業を実施しております。そのねらいとするところは、自己教育力の育成ということを通して、大学受験に十分対応できる足腰の強い生徒を育てていきたいということです。世上取り沙汰されております「指示待ち人間」が本校生の中にもおおく、自ら授業に取り組む姿勢を通して、この殻からの脱却をも狙いとしているわけです。

今秋、本校の外郭団体であります教育振興会のご尽力により、立派な雨天体育館が完成しました。この体育館と将来図として線引きをしている図書館とが両翼となつて、文武両道の道に羽ばたきたいものと思っております。

いすれ、同窓の皆様のご願いや望みがなかなかかなえられず、歯がゆい思いをいたしておられることと思いますが、今後とも母校に対し、従来通り目を向け続けてくださるようお願い申しあげます。

同窓会短信

- 4/21、鷹巣阿仁同窓会 29名
- 5/10、山田久志氏
- 能代市特別功労表彰 200名
- 5/22、北海道同窓会 22名
- 6/5、県庁・能高会 75名
- 8/29、山田久志氏
- 県民栄誉賞祝賀会 150名
- 9/22、秋田同窓会 120名
- 10/6、東京同窓会 200名